

Support for **Woman** Doctors ～私からあなたへ～

新井由季 先生【栃木県 25期】

那須赤十字病院

お子さんは 10 歳、8 歳、5 歳の 3 人



「お母さ～ん！！」

なぜか毎朝午前 5 時に 5 歳の長女は大音量で母を求める。隣に行くとそのまままた寝てしまうのだが、妹に起こされた次男が母の背中にしがみついてもぞもぞしてくる、これは眠れない…。そして午前 6 時の目覚ましがり鳴り、新井家全員起床。夫と自分の分のお弁当を適当に作り、「ピアノの練習は誰が最初にするの？」遊び始めた長男次男に声をかけつつ、ごろごろしている娘の着替えをさせようとするが、逃げ回って時間がかかる。夫が並べてくれた朝食を全員で「いただきます」。静かになったのは一瞬で、娘はおしゃべりしてなかなか食事が進まない。食べ終わった私はリクエストに応じて娘の髪の毛を結う。食事中だというのに洗面所に走り、鏡を見て髪型をチェック、にっこり笑ってポーズを決め、髪留めを追加している。通勤の車内で化粧を済ませる母から出てきたとはとても思えない。何とか促して食事を進め、食べ終わる頃にはお兄ちゃん 2 人は学校へ行く時間。忘れ物がないよう夫が声をかけている。娘に歯磨き、ピアノの練習をさせている間に夫が食洗機をセット。幼稚園経由で病院に着いた時にはひと仕事を終えた気分になっていた。

とりあえず階段を上る。子供たちと 1 日プールで遊んだ翌日、筋肉痛で動けなくなった私を夫が馬鹿にしたため、エレベーターを使わないようにしている。はあはあ言いながら、6 階の消化器内科病棟で回診。患者さんの笑顔に自分も笑顔になり、「ああやっぱり元気をくれるのは患者さんだな」と月並みな感想を持つ。8 階の緩和ケア病棟で患者さんに挨拶。「頑張ってくださいありがとうございます」。笑顔が返ってくる。

内視鏡検査が一区切りつき、今日は早く帰れるかも…と思いながら病棟を回っていると、救急外来から電話。食道静脈瘤破裂の既往のある 92 歳が黒色嘔吐で来院したとのこと。再吐血で夜中に呼び出されるより今見ておいた方がいいだろう。午後 4 時半、泣きたくなくなるが仕方ない。輸血と内視鏡検査をオーダーするとスタッフが素早く動いてくれて、午後 5 時には輸血が始まり、私は内視鏡を握っていた。挿入時には活動性出血はなかったが、胃内に出血源が無いことを確認して食道に戻ると血柱が見えた。平静を装うがやはりアドレナリンが出る。EVL で止血でき、入院のオーダーを立て病状を説明し終わると、午後 6 時近くになっていた。幼稚園にダッシュで迎えに行く。娘は最後の 1 人だった。すまぬ娘よ…。この時間に迎えに行けるのだから、他の医師に比べて楽に仕事をさせてもらっているのだろうとは思ふ。学童でお兄ちゃん 2 人を回収。夕食の準備をしていると夫が帰宅し、宿題の丸付けをしてくれる。大量のお直しが発生し、頭を抱える長男と夫。夕食を食べ、お風呂に入り、歯磨きをしたらもう寝る時間。子供たちがお母さんの隣を争い、いつものことながら下の 2 人が勝利して、添い寝している最中に夫が家を出る音がする。スキーのトレーニングの一環で走りに行くのだ。黙認。つい一緒に寝てしまい、ふと起きると帰った夫がお茶の準備をしていた。ここからは大人の時間。今夜のおやつはハーゲンダッツ。子供育成会の仕事で書類を作成する。夫と 2 人で洗濯物を干し、勉強する時間は無いと言い訳しながら午後 11 時就寝。そういえば社会人大学院卒業以来論文を書いていないなあ。

留学したいという夢は自分の努力不足で実現しそうにないけれど、しっかりと地面に立つ今の生活も悪くない。地方公務員をしている夫の仕事と趣味の時間を合わせると、私の仕事の分量と同じくらいだ。多分これが絶妙なバランスなのだろう。平凡な女医として生きる幸せを大切にしたい。



後輩医師・学生へ一言メッセージ

『あなたは頑張っている。今のままでいいんだよ。』